第３分科会

事実や自分の考え、気持ちなどを適切に表現する力を育成するための段階的指導

～「知識・技能」の定着から豊かで適切な「思考・判断・表現」への接続～

茨城県猿島郡境町立境第二中学校　　教諭　逆井　由紀子

１　主題設定の理由

茨城県境町では、魅力ある町づくりの一環として、平成30年度から、「スーパーグローバルスクール事業」として英語教育に重点を置き、「英語を話せる子どもたちを育成する」ことを目標としている。小学校１年生から日常的に英語に触れながら、小中学校９年間を通して、実用的な英語力を身に付け、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指している。

小学校５校に13名、中学校２校に８名の英語講師がALTとして常駐している。感性豊かな早期段階から、生きた英語に慣れ親しむことにより、コミュニケーションを図ろうとする態度を涵養し、言語活動の充実を図ることで、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現する力を段階的に育成している。事実、本校においても、小学校段階から英語の素地を身に付けて中学校に入学してくる生徒が多い。本校における、中学校入学時の英検取得人数は以下の通りである。

	５級	４級	３級
R２年度（64名）	31名	２名	０名
R３年度（79名）	47名	11名	３名
R４年度（59名）	31名	２名	３名

本校２学年生徒も入学時から英語学習に対して意欲が高く、授業にも積極的に取り組んでいる。一方で、実態調査から、まとまりのある内容を表現すること、特に話すことに対して苦手意識をもつ生徒が約４割いることが分かった。表現できない理由として、「表現しようとする内容を整理して正しく話すことができない」「どのように会話を広げたらよいか分からない」といった意見が多数あった。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編「第２章　外国語科の目標及び内容　第２節　英語　１　目標（３）話すこと［やり取り］」では「イ　日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりすることができるようにする。」とあり、さらに「第２章　外国語科の目標及び内容　第２節　英語　２　内容（思考力、判断力、表現力等）(3)言語活動及びの働きに関する事項　エ　話すこと［やり取り］　（イ）」では、「伝えようとする内容を表現するために，限られた時間でまとまりのある文章を頭の中で組み立てることや，質問に対して的確に反応することは，しばしば生徒にとって難しいことがある。そのため，自分の考えなどを短時間で構成して伝え，質問に応答できるようになるための橋渡しとして，大まかな流れや主要な点を書いたメモに基づいて伝え合うなど段階的に指導することが大切である。」とある。そこで、本研究における主題を「事実や自分の考え、気持ちなどを正しく表現する力を育成するための段階的指導」と設定した。「事実や自分の考え、気持ちなどを適切に表現する力」とは、「キーワードを整理し適切に文法事項を用いて、相手に分かりやすく伝える力」と捉え、その育成を目指す。そして、会話を継続・発展させる言語活動を数多く経験させ、使用する表現の幅を広げる工夫を図りながら、目指す生徒の姿に迫る。

２　研究の概要

(1)　文構造や文法事項の定着を図るための指導の工夫

①帯活動Q-A

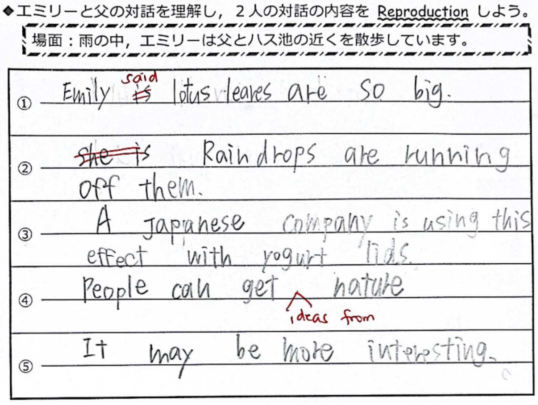
このQ-Aは３人グループで行う。各プログラムの新出文法を導入した後、新出文法を中心に４つの質問や表現についてペアでやり取りする活動である。毎回４枚の質問カードを使用し、生徒Aがカードの質問を読み、生徒Bがそれに対して答えていく。そして、その様子を生徒Cがタブレットで撮影する。やり取りの相手と撮影者を交替しながら、同じ活動を３回繰り返す。やり取りの１回目は全てのカードに対して１問１答で、２回目は１問２答、３回目は１問３答というように、スモールステップで進める。学習中の新出文法の正確性だけでなく、既習事項を用いて発話量の向上や相づち・つなぎ言葉を効果的に使った自然なやり取りを目指す。活動後、撮影した動画を教師用タブレットに提出する。ALTが「正確性」「リアクション」「声の大きさやスピード」などをチェックし、送り返す。次時の活動前に、生徒はALTからの評価を確認し、自分の動画を視聴することで振り返りを行い、次回に繋げる。単なる動画の蓄積だけでなく、デジタルポートフォリオ上でALTからのフィードバックができるようにしている。

ペアでのやりとりを撮影する生徒C

ALTがチェックをして生徒に送り返す

②リプロダクション

リプロダクションでは、登場人物の名前や三人称代名詞に変換しなければならないので、種類が多く使い分けが難しい代名詞を再確認することができる。また、現在形の文章であれば、一般動詞を三人称単数現在形に変化させなければならない。このように１年生で既習の文法を復習することもできる。そして、本活動においては、リード文として場面や状況を説明したり、自分の思いや考えを述べるオリジナルの英文を最後に加えたりする工夫で、知識・技能から表現力への段階的な育成を図っている。


◆エミリーと父の対話を理解し，２人の対話の内容を Reproduction しよう。

場面：雨の中，エミリーは父とハス池の近くを散歩しています。

① Emily ~~is~~ said lotus leaves are so big.

② ~~She is~~ Raindrops are running off them.

③ A Japanese company is using this effect with yogurt lids.

④ People can get ideas from nature

⑤ It may be more interesting.

生徒Dは、蓮の葉の撥水性がヨーグルトのふたに利用されていることをリプロダクションしたが、リード文や自分の考えはまだ含まれていない。ALTが表現やつづりの間違いを添削している。

(2) 事実や自分の考え、気持ちなどを適切に表現するための指導の工夫

①チャット・タイム

チャット・タイムは、帯活動のQ-Aを発展させたものであり、小グループ内で協力しながら、テーマについて即興でやり取りを創り上げていくクリエイティブな活動である。活動時間内であれば、内容を変えて繰り返し挑戦することができる。やり取りの様子を代表生徒のタブレットで録画し、振り返りや評価に生かす。

本活動を進めるにあたり、表現することに対する生徒の抵抗感を下げるために、２つの異なるステージを設定している。

1st Roundは、共通のトピックについてやり取りを考える。中間指導において、適切な表現や表現できなかったことを共有することで、全てのグループが意欲的に活動に取り組めるようにする。準備ができたグループから、ALTの前でやり取りを行う。

2nd Roundでは、別のトピックについて、ALTを交えてその場でやり取りさせることで、伝える相手や伝え合う内容に応じて、即興でやり取りを展開できる力を育成していく。上手くやり取りができなかったグループには、録画した動画を見直し、再考してから再び挑戦するよう促す。

実際のやり取りでは、「分かりやすく伝え合っているか」「表現や内容は適切か」「相手の興味に応じた内容か」等の視点を明確にすることで、活動に見通しをもちながら、質疑応答したり自分たちの考えや気持ちを述べたりできるようにする。そして、後日、関連した別のテーマでパフォーマンステストを行うことで、既習表現の定着とその活用を図る。

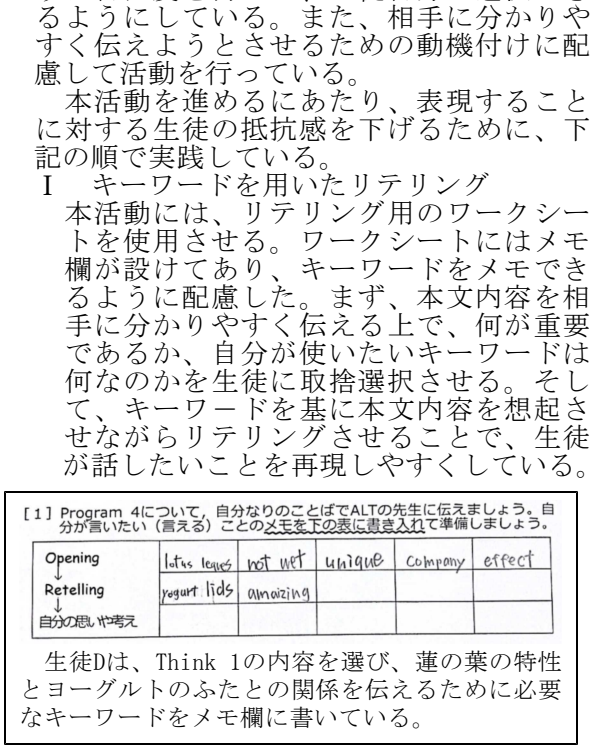
②リテリング

本校では、リテリングをリプロダクション後の活動として位置付けており、本活動への円滑な導入を図っている。キーワードのメモを基に、教科書本文内容を自分の言葉で話したり書いたりして再現させることで、表現力のさらなる向上を目指している。また、生徒の興味や関心を高めるために、プログラム全体について話しても、自分が言える内容に絞って話してもよいというように自由度を持たせ、生徒自身が選択できるようにしている。また、相手に分かりやすく伝えようとさせるための動機付けに配慮して活動を行っている。

本活動を進めるにあたり、表現することに対する生徒の抵抗感を下げるために、下記の順で実践している。

Ⅰ　キーワードを用いたリテリング

本活動には、リテリング用のワークシートを使用させる。ワークシートにはメモ欄が設けてあり、キーワードをメモできるように配慮した。まず、本文内容を相手に分かりやすく伝える上で、何が重要であるか、自分が使いたいキーワードは何なのかを生徒に取捨選択させる。そして、キーワードを基に本文内容を想起させながらリテリングさせることで、生徒が話したいことを再現しやすくしている。


[1] Program 4について，自分なりのことばでALTの先生に伝えましょう。自分が言いたい（言える）ことのメモを下の表に書き入れて準備しましょう。

Opening ↓	lotus leaves	not wet	unique	company	effect
Retelling ↓	yogurt lids	amazing			
自分の思いや考え					

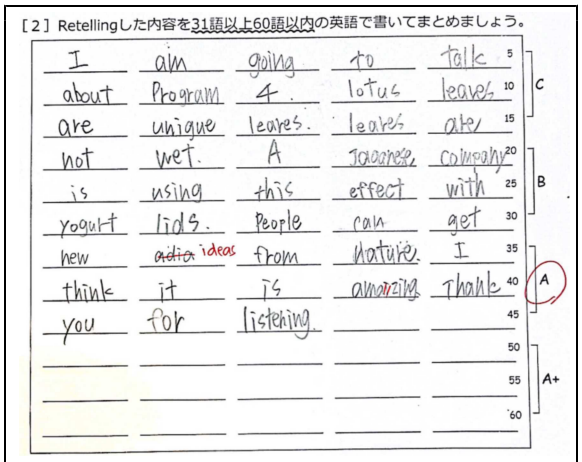
生徒Dは、Think 1の内容を選び、蓮の葉の特性とヨーグルトのふたとの関係を伝えるために必要なキーワードをメモ欄に書いている。

Ⅱ　Q-A

本文内容や自分のリテリングについて、より理解を深めさせるために、ALTからの質問に即興で答える。１問１答で終わらないように、自分の意見や理由などを加えて答えるように促す。

Ⅲ　ライティング

最後に、自分が話したことを思い起こしながら書いてまとめさせることで、思考を整理させる。教科書やリプロダクションのワークシートを見ないで書かせることで、書く力の向上にも繋げる。


[2] Retellingした内容を31語以上60語以内の英語で書いてまとめましょう。

I	am	going	to	talk
about	Program	4.	lotus	leaves
are	unique	leaves.	leaves	are
not	wet.	A	Japanese	company
is	using	this	effect	with
yogurt	lids.	People	can	get
new	~~aidia~~ ideas	from	nature.	I
think	it	is	amazing	Thank
you	for	listening.		

C　B　A　A+

生徒Dのリテリングをリプロダクションと比べると、リード文や自分の考えを加えて、相手に分かりやすく伝えようとしているのが分かる。

(3) 実践事例

①単元名

SUNSHINE ENGLISH COURSE 2
Program 6 Live Life in True Harmony

②単元の目標

日本文化に興味をもっているハワイ州アリアマヌ中学校の生徒に日本文化を分かりやすく伝えるために、質疑応答したり、自分の考えや気持ちを述べたりするなど、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。

③単元計画（10時間扱い）

次	時	ねらい（■）帯活動（○）主活動（●）
1	1	■単元の目標を理解できる。 ■受け身（肯定）の用法を理解し、身の回りのものについてクイズを出し合うことができる。 ○Q-A①（日本文化紹介） ●ディクテーション ●Speak & Write
	2	■byを使った受け身とその疑問文の用法を理解し、だれかによってされたものについて話したり書いたりして表現することができる。 ○Q-A②（日本文化紹介） ●ディクテーション ●Speak & Write
	3	■by以外の前置詞を使った受け身の用法を理解し、原料や材料について話したり書いたりして表現することができる。 ○Q-A③（日本文化紹介） ●ディクテーション ●Speak & Write
	4 本時	■日本文化に興味をもっているALTに日本文化を分かりやすく伝えるために、質疑応答したり、自分の考えや気持ちを述べたりするなど、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。 ●チャット・タイム
2	5・6・7	■スティービー・ワンダーについてほかの人に伝えるために、彼の曲や信念に関する英文の概要や要点を捉えることができる。 ○ライティング①～③（日本文化紹介） ●リプロダクション
3	8・9	■小グループでの協働学習や代表生徒による解説を通して、本文の大切なポイントを理解することができる。 ○リピート・チェック①～② ●ミニテスト
	10	■スティービー・ワンダーの曲や信念について、自分の思いや考えを加えて、ALTに分かりやすく伝えることができる。 ○リピート・チェック③ ●リテリング
後日		パフォーマンステスト ①テスト直前にテーマを示す。 Let's talk about historical figures! ②1st Round ： 小グループ内で共通の歴史上に人物についてやり取りを考え、伝え合う。 ③2nd Round ： 別の歴史上の人物について、ALTを交えて即興で伝え合う。
11月		ハワイ州アリアマヌ中学校の生徒との交流会

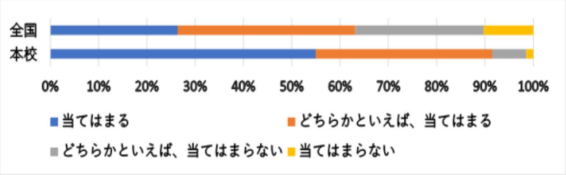
④授業の展開

	主な言語活動（半角数字） 目標に迫るための手立て（※）
	目標：日本文化に興味をもっているALTに日本文化を分かりやすく伝えるために、質疑応答したり、自分の考えや気持ちを述べたりするなど、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。 1　英語で挨拶、簡単なやり取りをする。 2　課題の確認をする。 日本文化について、グループで協力して考え伝え合おう！ 3　やり取りの準備をする。 ・小グループに分かれ、共通の日本文化についてのやり取りを考える。（３人×13グループ） ※中間指導の中で、適切な表現や表現できなかったことを確認し合う。 4　チャット・タイムを行う。 ・準備ができたグループはオープンスペースに移動し、やり取りを行う。 ・やり取りは30～40秒で行う。 ・やり取りの様子を代表生徒のタブレットで録画する。 (1)1st Round ・小グループ内で共通の日本文化について伝え合う。 (2)2nd Round ※別の日本文化について、ALTも交えて即興で伝え合う。 ・終わったグループは、別の日本文化についてのやり取りに挑戦する。 ※上手くやり取りができなかったグループには、録画した動画を見直し、グループ内で再考してから再び挑戦するよう促す。 5　振り返りを行う。 ・タブレットの振り返りシートに記入する。 6　次時の学習内容を知る。

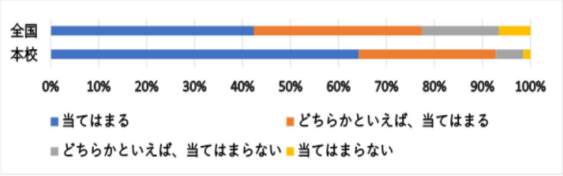
3　研究の成果と今後の課題

(1)　平成31年度全国学力学習状況調査の生徒質問紙における全国の結果と本校令和４年度２学年生徒の実態調査結果の比較

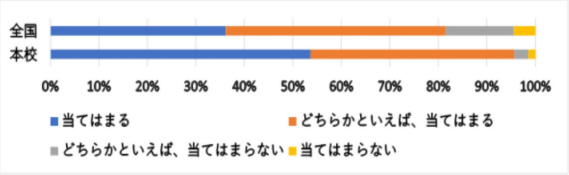
①１、２年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。



②１、２年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。

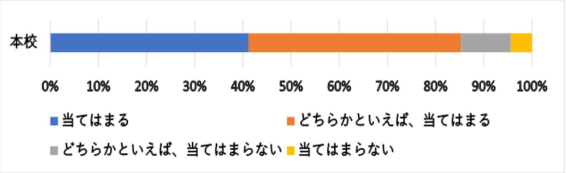


③１、２年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。

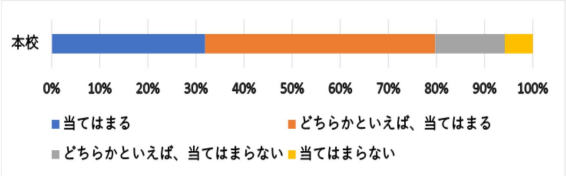


(2)　本校令和４年度２学年生徒の実態調査結果

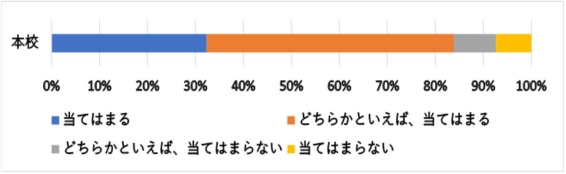
①ALTや友達とやり取りをする活動について、昨年度と比べると、あなたは間違いを恐れずに会話ができるようになったと思いますか。



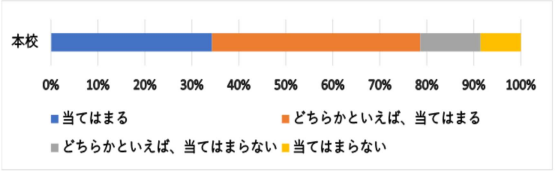
②ALTや友達とやり取りをする活動について、昨年度と比べると、あなたは会話を続けられるようになったと思いますか。



③ALTや友達とやり取りをする活動について、昨年度と比べると、あなたは会話の内容に応じて適切な表現が使えるようになったと思いますか。



④ALTや友達とやり取りをする活動について、昨年度と比べると、あなたはいろいろな表現を使って会話を発展させられるようになったと思いますか。



(3)　成果

①全国学力学習状況調査の(1)①～③において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒が、いずれの質問においても全国平均を上回っている。平成31年度に全国学力学習状況調査が実施されたのをきっかけに、質問項目のような言語活動を意識的に取り入れて行ってきた結果が反映された。

②本校令和４年度２学年生徒の実態調査結果から、１学年次と比べ、ALTや友達とやり取りをすることへの抵抗感が薄れ、多くの生徒が意欲的に活動に取り組んでいることが分かった。また、「会話を続けられるようになった」「会話の内容に応じて適切な表現が使えるようになった」「いろいろな表現を使って会話を発展させられるようになった」と感じている生徒が約80％に達している。これは帯活動のQ-Aを継続して行い、「知識・技能」を定着させてから、チャット・タイムに発展させることで、「思考・判断・表現」へとスムーズに接続できていると考察できる。

(4)　課題

①本校２学年生徒の実態調査④の結果とチャット・タイムでの評価・行動観察から、いろいろな表現を使って会話を発展させることについては課題がまだ残る。やり取りを続けられるようにはなってきたものの、その内容に注目してみると、表現が固定化されていたり正確性を気にするあまり様々な表現を用いてやり取りを広げようとする発展性が見られない生徒がまだいる。今後は、生徒の思いや考えを引き出す方法をさらに工夫する必要がある。例えば、テーマについて日本語で話をさせたりメモを取らせたりして、テーマの内容を想起させてから活動に取り組ませることで、話したい内容が頭に浮かび、それを基に英語で話せるようになると考える。

②今回のチャット・タイムでは、トピックについての具体的な説明が不足しており、やり取りの深まりが見られないグループが多かった。ただやり取りを続けるだけでなく、「分かりやすく伝え合っているか」「表現や内容は適切か」「相手の興味に応じた内容か」等の視点を繰り返し確認しながら、事実や自分の考え、気持ちなどを整理させて活動に取り組ませていく。また、帯活動のQ-Aのやり取りの内容をもっと充実させたり、ジャッジシートやデジタルポートフォリオの評価規準を見直したりする必要があると考える。

4　指導助言者

茨城県県西教育事務所　木村涼子　指導主事
境町教育委員会　松本理恵　指導主事